

讃岐かがり手まり × 讃岐漆芸



糸と漆 膝^かりと彫り
素材も技法も
異なるものが
織り成す宇宙



8月5日(金)―9月4日(日) 9時―17時

会場・香川県文化会館一階 香川漆芸ホール 会期中無休 観覧無料
問合せ・香川県漆芸研究所 電話・087・831・1814
主催・香川県漆芸研究所 讃岐かがり手まり保存会

讃岐かがり手まり×讃岐漆芸

令和4年8月5日(金)～令和4年9月4日(日)

ここ讃岐の地で、江戸時代から連綿と伝え続けられてきた「讃岐漆芸」と「讃岐かがり手まり」。
用いられる素材も技法も、またその用途も異なりますが、二つの伝統工芸がコラボレートすることで、
たがいの美を惹きたてあう魅力溢れる空間が創り出されました。

暑い夏、喧しい世情をひととき忘れて、手まりと漆器の出会いが織りなす繊細で静謐な宇宙をお楽しみ
ください。

讃岐漆芸	
作家名	作品名
藤川 黒斎	存清 花鳥丸盆
藤川 蘭斎	蒔醬重箱
音丸 耕堂	彫漆布袋葵茶器
音丸 耕堂	彫漆延齡草菓子器
音丸 耕堂	堆漆柿香合
高橋 静道	彫漆草花文花器
香川 宗石	存清 瑞鳥之図食籠
香川 宗石	存清花蝶紋手箱
磯井 正美	乾漆蒔醬波文盛器
太田 儔	籃胎蒔醬八角食籠草花文
山下 義人	蒔醬時絵盆「落椿」
大谷 早人	籃胎蒔醬菓子器「川瀬」

他、香川県漆芸研究所修了作品

同時開催 人間国宝作品特別展示

- 磯井如眞 『乾漆 水盤 遊漁之図』
- 磯井如眞 『蒔醬 喰籠 遊禽之図』

写真撮影OK

所蔵 | 香川県漆芸研究所

讃岐かがり手まり

歴史

江戸時代、地元の名産品である木綿の糸を草木染めした手まりは、西讃（讃岐地方西部）地方で、盛んにつくられました。しかし、明治時代にゴムまりが普及すると、素朴な手まりづくりは次第に忘れ去られていきます。県の職員だった荒木計雄は民藝運動にも熱心で、その活動の中で、地元に伝わる木綿手まりの存在を知り、継承と保存のための調査研究に乗り出し、消えていたわざに息を吹き込みました。昭和52年（1977）、"讃岐かがり手まり"と命名、昭和58年（1983）には、妻の八重子とともに観音寺市にて讃岐かがり手まり保存会を立ち上げます。そして、4年後の昭和62年（1987）、香川県の伝統的工芸品の指定を受けました。現在は、荒木永子が二人の遺志を受け継いでいます。

特徴

讃岐かがり手まりは、昔ながらの素材や技法でひとつひとついねいにつくられています。身近にある自然の恵みに知恵を働かせ素材や環境に無理のないようにと心がけています。染色のための染液は植物から色素を引き出して作ります。木綿は草木の色素に染まりにくいので、呉汁と呼ばれる大豆の絞り汁に浸けて下準備をします。木綿糸ならではのマットな風合いと素朴な色が讃岐かがり手まりの特徴。糸に負担をかけないように、発色を促す媒染剤も自然のものを選んで穏やかに色を出し、重ね染め。濃淡さまざまに染め、染液を使い切ります。

手まりの芯は穀殻を薄手の紙で包んだもの。これに細い木綿糸を紙が見えなくなるまでランダムに巻いて、まんまるな土台を作ります。土台を仕上げたら、模様をつくる案内線として、手まりを等分に分割する地割り線をかかります。まりを地球に例えて、北極、南極、赤道を基準に、模様により分割の数も変わります。そして、地割り線を目安に規則的に糸を行き交わして、さまざまな幾何学模様を生み出していくのが、かがりの技法です。幾何学的な直線の模様を曲面にかがることが、手まりならではのやわらぎが生まれるのです。



香川県漆芸研究所

〒760-0017 香川県高松市番町一丁目10番39号

TEL : 087-831-1814 FAX : 087-831-1807

E-mail : shitsugei@pref.kagawa.lg.jp

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/>



讃岐かがり手まり保存会

〒760-0055 香川県高松市観光通2丁目3-16

営業時間 10:00～17:00

定休日 日曜日・祝日

E-mail : sanuki@eiko-temari.jp

<http://www.eiko-temari.jp/>

